

八王子市立第四・第十・大和田小学校

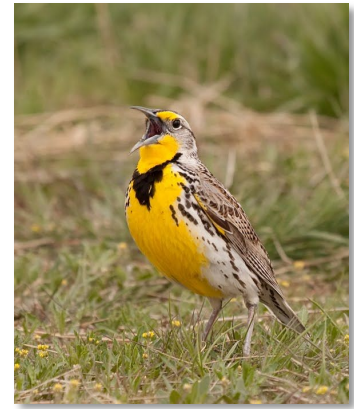
放課後子ども教室 囲碁教室だより

五十号 2020年11月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <https://naritas.jp/wp1/>

八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>



Western Meadowlark

●子ども囲碁教室の予定

第四小学校：11月2日、9日、16日、30日 2:30～4:00pm 三階ひらめき教室

第十小学校：11月6日、13日、22日、27日 3:00～4:00pm 家庭科室

大和田小学校：11月4日、11日、18日、25日、30日 2:30～4:00pm 第二音楽室

●高等教育に備えて

小学校での体育学習発表会(運動会)を半日見学してきました。子ども達は競技に演技に真剣でした。それを支える学校関係者の努力も伝わりました。この子ども達はあつという間に、大学受験を控えることとなります。保護者の皆様は、お子様の高等教育に備えていることと察します。

現在、国立大学で入学料28万2,000円、授業料が年間53万5,800円となっています。公立大学は少し安いですが、、、私立大学の理系では、平均して入学料は25万5,000円、授業料は年間110万6,000円、施設設備費が18万5,000円となっています。その他諸々、多額の学費がかかります。

アメリカの大学は日本と同様に授業料は高騰しています。そのため子どもが誕生したときから、将来の学費を考えて子ども名義で教育費を貯めることが普通です。一流大学には、裕福な家庭の学生が多いのは日本とアメリカは同じです。しかし、このような状態では金持ちの家庭の学生だけとなり、貧しくても優秀な学生は入学することができません。アメリカの大学は多様な資質や能力の学生を集めて大学の発展を期しています。そのため、奨学金や助成金となる財源を確保することに奔走します。経済的に恵まれなくとも優秀である学生を集めることは、大学の将来への投資であると考えられます。



アメリカでは、裕福な家庭の出身でも「奨学金を得て、自分で大学へ行く」というのが一般的です。有名な大学に合格できる学生であれば、返済不要の奨学金を得られることは珍しくありません。年収が12万ドル(1,300万円)以下の家庭であれば、授業料は免除するという大学もあります。もと日本育英会であった日本学生支援機構は、要返済で利息付きと無利息、そして給付奨学金を用意しています。貸与される学生は53万人、そのうち月額2～4万円の給付奨学生は高等専門学校を含めて、令和元年度はたったの19,000人となっています。国のお抱えである国立大学は、奨学金となる基金集めが誠にお粗末です。同窓生の間にも「母校に寄付をする」という文化が薄いのは、充実した大学教育を受けられなかったことを示しています。

日本では、「学費は保護者が払う」というのが常識のようですが、奨学金も低いので、学生は昼間の授業を抜け出しアルバイトをし、夜勤にも精を出すのです。そのため授業では居眠りしています。これではなんのために大学に行くのか首を傾げてしまいます。大学3年のときから就活に追われ、将来の進路に必要な基礎学力が疎かになるのは、国難ともいえる状況です。

お子さんの高等教育に備え、教育への投資の大切さと困難さを理解させるために、小さい時からお金の教育を始め、お金の大切さを教えるのです。その教育によって、貸与される奨学金やローンを将来は自分で返済するという気概を持たせなければなりません。保護者がなにもかも高等教育の面倒をみるというのでは、子どもの自立心や独立心は育ちません。一步譲って、大学院は自分のお金で行かせるべきです。

